

屋外展示物

新交通「ゆりかもめ」

船の科学館



▲大型スクリュープロペラ ▲潜水調査船「たんかい」 ▲深海潜水艇PC-18(模型)



▲半没水型双胴実験船「マリンエース」 ▲超電導電磁推進装置

体験プログラム



お子様を対象にした
体験プログラムを
随時開催しております

詳しくはWEBで!

船の科学館

検索

年表(1974年～)～船の科学館のあゆみ～

- 1974年(S49) 7月20日「海の記念日」に開館(写真①)
- 1979年(S54) 5月に初代南極観測船「宗谷」を公開(写真②)
- 2001年(H13) ナカシマプロペラ(株)より寄贈の大型スクリュー・プロペラを公開
- 2003年(H15) 日本財団との連携により「北朝鮮工作船」を展示(写真③)
- 2011年(H23) リニューアル準備のため9月30日より船の科学館「本館」展示公開を休止
- 2012年(H24) 「船の科学館 別館展示場」を公開



新交通「ゆりかもめ」新橋駅(17分)・豊洲駅(14分)より「船の科学館駅」下車

- 東京臨海高速鉄道りんかい線「東京テレポート駅」下車……………徒歩約12分
 - 都バス(「船の科学館駅前」下車)
 - ・海01 地下鉄「門前仲町駅」より「豊洲駅」經由「東京テレポート駅」行き
 - ・波01 出入「品川駅港南口」より「東京テレポート駅」行き
 - 車【首都高速】
 - ・首都高速湾岸線 横浜・大井・品川方面より東京港トンネル通過後「臨海副都心」出口 千葉・小菅・箱崎方面より「有明」出口
 - ・首都高速11号線 竹芝・芝浦方面より「台場」出口
- 【一般道】臨海道路(レインボーブリッジ下層)「台場」出口

【入館料】無料

【開館時間】AM10:00～PM5:00(“宗谷”乗船はPM4:45まで)

【休館日】●毎週月曜日 ●年末年始
(月曜日が祝日の場合は火曜日) (12/28～1/3)

【お問い合わせ先】TEL:03(5500)1111
〒135-8587 東京都品川区東八潮3番1号

詳しくは、ホームページアドレス <http://www.funenokagakukan.or.jp>

2017.07

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION



七つの海をひとつに結ぶ
船の科学館



MUSEUM OF MARITIME SCIENCE

船の科学館は、海と船の文化をテーマにした海洋博物館です。

四面を海にかこまれた日本は、古より海を利用し、海に資源を求めて海洋国として発展してきました。

今日、わが国が世界の中で重要な役割を果たしているのも、海運・造船をはじめとする様々な海事諸産業の発達が基盤となっているといえるでしょう。

今後、日本が経済だけでなく文化的にもさらなる飛躍を遂げ、世界に貢献するためには〈海洋〉が一層重要になります。「海に守られた日本」から「海を守る日本」へ、未来に向けた〈海洋〉への取り組みが始まっている現在、当館は、海と船の文化をテーマに〈海洋〉への理解と認識を深める多彩な活動を積極的に展開してまいります。



南極観測船 宗谷

大きさ………2,736総トン
全長………83.7メートル
最大速力………12.3ノット
乗組員数………94名
観測隊員数………36名
(南極観測船当時)

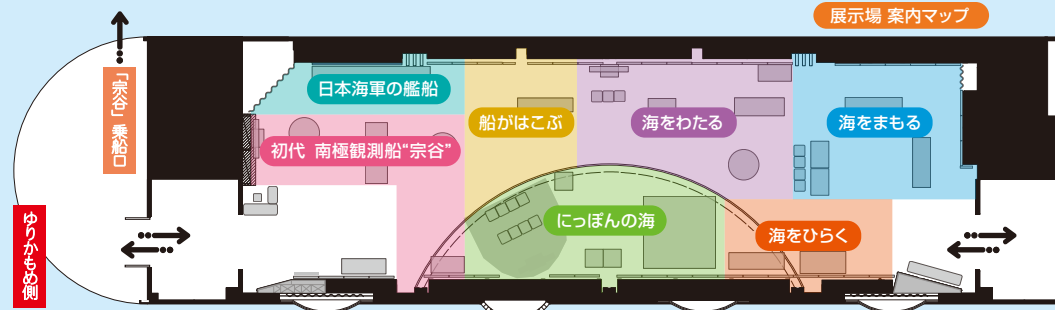
“宗谷”は1938年(S13) 耐氷型貨物船として建造され、太平洋戦争を経験。その後引揚船、灯台補給船となり、1956年(S31) 11月からは日本初の南極観測船として1962年(S37)4月まで、6次にわたる南極観測に活躍しました。その後1978年(S53)に退役するまで海上保安庁の巡視船として活躍、1979年(S54) 5月から、船の科学館前に係留され保存展示されています。



別館展示場



▲外観



展示場 案内マップ



▲海をまもるコーナー



▲海をわたるコーナー



▲日本海軍の艦船コーナー



▲につぼんの海コーナー

お知らせ

現在、船の科学館はリニューアル準備のため、本館展示公開を休止し、初代南極観測船“宗谷”を中心とした屋外展示資料と「船の科学館 別館展示場」を公開しております。